

平成 30 年度公立高等学校入学者選抜学力検査

結果の分析について

今回の教育情報紙では、3月6日に実施しました公立高等学校入学者選抜学力検査について、全体の概要と教科別の傾向、課題等を掲載します。今後の小・中学校での学習指導の参考にしていただきたいと思いますと考えています。

なお、詳細については、島根県教育庁教育指導課ホームページに、高校入学者選抜関連情報として掲載しています。

【概要】

学力検査の平均点は表1のとおりです。

本検査は、中学校学習指導要領に沿って日頃の学習で積み上げられた学力を測るものであるとともに、問題作成に当たっては、昨年度同様、知識・技能に加えて、思考力・判断力・表現力等を問う問題を重視しました。

表 1 平均点

教科	平成30年度	平成29年度
国語	28.2	31.6
社会	25.5	22.5
数学	21.8	23.9
理科	25.1	20.8
英語	24.1	20.3
総得点	124.7	119.0

学力検査結果全般から読み取れる学力の傾向は、次のとおりです。

- ①基礎的・基本的な事項については概ね定着している。
- ②何が問われているか正確に読み取り、複数の知識・技能を結び付け、筋道を立てて考えや理由を説明する力に課題がある。

なお、各教科の思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題例と分析については次ページ以降にまとめています。

国語科

出題例及び分析

【第五問題】問三の出題のねらいは、「複数の資料を目的に応じて選択し、それを根拠として使いながら自分の意見を書く力を見る」ことでした。根拠となるデータを資料に求めながら「ボランティア活動」についての自分の考え・工夫を書くことが問われていて、思考力・判断力・表現力を問う問題となっています。

無答の生徒は非常に少なく、「自分の意見を書く」ことに関する中学校での指導の成果がうかがえました。ただし、正答率（完全正答）は3.7%にとどまりました。クラス30名の中にやっと一人正答者がいるという状況です。

実施後のアンケートの中では中学校側から「このような情報の読み取りを基にした文章を書かせる問題は学校でもしているので、継続してほしい」という意見があった一方、高校側からは「自分の意見を具体的に述べていない」「書く条件が四つもありすべてには対応できていない」という意見が目立ちました。

ボランティアへの参加者を増やす工夫として自分自身が考えた意見を書き、その根拠としてA、Bの両方の資料を組み合わせて使わなければならないのに、資料の項目そのものを自分の「意見」としてしまいう解答が多くみられました。これは、問題の意図がしっかり読み取れず、文章をどのように構成するか思考せずに書き出してしまったことが原因として考えられます。また、資料を一つしか使っていない解答も散見され、情報と情報との関係をとらえて理解する力に課題がみえました。

集めた材料を分類、整理し、文章を構成する力、伝えたいことを明らかにして書く力は今後も情報化が進む社会の中でいっそう大切になります。情報を集め、複数の情報を比較、関連付けながら自分の考えを形成し、適切に表現する学習の充実が求められています。

【資料B】
「ボランティア活動を始めたきっかけ」
(複数回答、上位のもの。)

学校や会社の活動の一環	32%
友人や家族からの誘い	29%
学校や会社での呼びかけ	13%
ボランティア団体の呼びかけ	9%

【資料A】
「ボランティア活動をしなかった・できなかった理由」
(複数回答、上位のもの。)

忙しくて時間がとれなかった	37%
参加方法が分からなかった	32%
どんなボランティアをすればいいか分からなかった	21%
一緒に参加する仲間がいなかった	14%

【第五問題】
「ボランティア活動に関する資料」

(財団法人経済広報センター「ボランティア活動に関する意識・実態調査報告書」2011年7月より作成)
対象：全国のさまざまな職種、世代の約2000名。
【資料A】【資料B】は、ともに29歳以下の回答をまとめたデータ。

問三 上の【資料A】【資料B】は、ボランティア活動に関する資料です。これらの資料を基に、ボランティア活動への参加者を増やすための工夫について、あなたの意見を書きなさい。なお、次の①～④の条件に従って文章を作成すること。

- ① ボランティア活動への参加者を増やすための工夫を一つ挙げ、意見文を書くこと。
- ② 【資料A】【資料B】両方の内容を取り上げること。ただし、数量は取り上げても、取り上げなくてもよい。
- ③ 【資料A】【資料B】ともに、その工夫によって参加者が増えることを説明するための根拠として使うこと。
- ④ 百二十文字以上、百五十文字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数える。ただし、一マス目から書き始める場合は数えられない。

※数字や記号は次のように書いてよい。

例 60 %

※数字を括弧で囲って書く場合は、二本線で囲むたり、空白に書き加えたりしてよい。

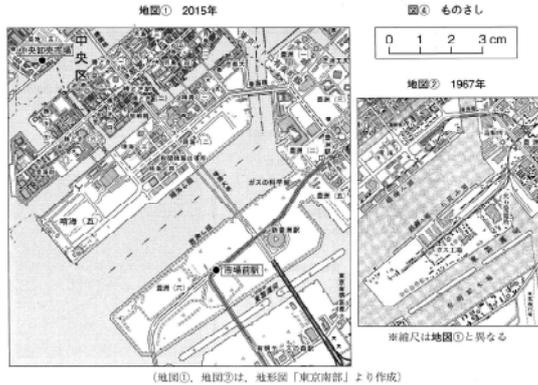
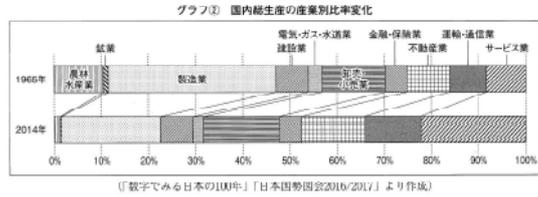
<正答例> 私は学校にボランティア掲示板を作ればよいと思います。資料Aからは、情報不足が原因で活動に参加できなかった人が多くいることが分かります。資料Bからは、団体からの呼びかけで参加した人は一割に満たず、情報が不足していることが分かります。学校に掲示板を作れば情報が届きやすくなり、参加する人が増えると思います。

社会科

出題例及び分析

【第1問題】問4

6 日本の産業構造は、高度経済成長期と現在ではグラフ②のように変化をした。グラフ②の第二次産業の変化にふれた上で、地図①、地図②の比較からみえる、豊洲における第二次産業に関する変化を、具体例をあげて30字以上、40字以内で説明しなさい。



正解答(例)

第二次産業の比率が減り、造船所、鉄鋼工場などが、現在はなくなっている。(35字)

高度経済成長期と現在の産業構造の変化を、グラフ・地図から比較し説明する問題です。正答を導くためには、第二次産業に該当する製造業等の変化についてグラフで確認しながら、豊洲地区の地図ではどのように変化しているかについて思考、判断していく力が求められます。解答には字数制限があるため、問題の趣旨を理解した上で、適切に自分の考えをまとめる表現力も問われる問題です。部分点も含め得点できた受検生は49.0%でした。

【第2問題】

問2 近代について、次の年表を参考にして、下の1、2に答えなさい。

西暦	日本と世界の主なできごと
1914年	第一次世界大戦が始まる。日本は連合国側で参戦する。
1917年	ロシア革命が起こる。
1918年	原敬内閣が成立する。第一次世界大戦が終わる。
1925年	日本で満25歳以上の男子に選挙権が認められる。

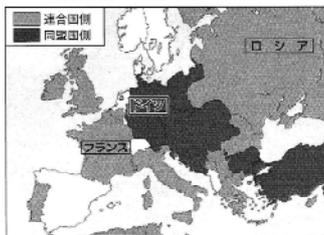
1 表①中の **C**、**D**、**E** にあてはまる、日本の輸出相手国の組み合わせとして正しいものを、略地図①を参考にして、下のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

表① 日本の輸出額の変化 (単位：万円)

輸出相手国	C	D	E
1913年	490	6023	1313
1914年	197	3121	996
1915年	1124	4229	-
1916年	3342	6401	-
1917年	1352	9782	-
1918年	16	14220	-
1919年	46	6685	6
1920年	21	7165	107

※表中の「-」は不明または統計なし。
(「明治大正国勢総覧」より作成)

略地図① 1917年のヨーロッパ



- | | | | |
|---|---------------|---------------|---------------|
| ア | C フランス | D ロシア | E ドイツ |
| イ | C フランス | D ドイツ | E ロシア |
| ウ | C ロシア | D ドイツ | E フランス |
| エ | C ロシア | D フランス | E ドイツ |

正解答 エ

年表、表、略地図という種類の異なる資料を活用し、第一次世界大戦前後の日本の貿易輸出国を、当時の国際情勢や同盟関係から考察し、正答を選択する問題です。

表にあるような日本の輸出額の変化はなぜ起こったのか、年表の出来事と略地図に示されたヨーロッパの同盟関係をもとに思考、判断していく力が求められます。また、中学校で学ぶ第一次世界大戦やロシア革命の知識があればより確実に正答を導くことができる問題です。正答率は25.5%でした。

数学科

出題例及び分析

※紙面の都合上検査問題のレイアウト等を変更しています。

この問題は、既習の知識から構想を見いだす力を問う意図で出題しました。

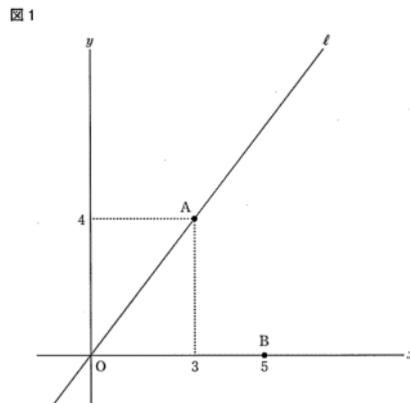
中学校までの学習では、中点の座標を求める公式は扱いません。ここでは、直線 AB の傾きを利用して線分 AB の中点に着目する方法や、角の二等分線の作図からひし形をつくり、それを利用して図形的に捉える方法など複数の解法で解くことができます。

違う解法を考えたり、他の分野と関連付けたりしながら、学んだことがどのような場面で活用できるのかをさまざまな機会 で指導し、生徒自身の考えを広げる学習を一層充実させてほしいと思います。

【第 4 問題】問 1

3 $\angle AOB$ の二等分線を表す直線の傾きを求めなさい。

正解答 (例) $\frac{1}{2}$



【第 2 問題】問 1

2 さいころを 2 回投げるとき、コマ P を 1 回目は右回りに移動させ、2 回目は 1 回目に止まったマスから左回りに移動させる。

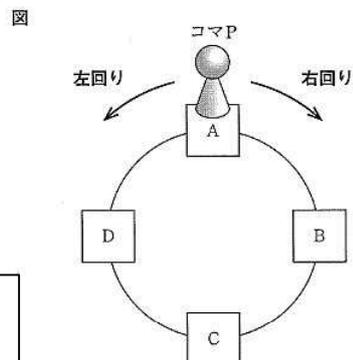
コマ P が最後に A のマスに止まる場合の 1 回目と 2 回目のさいころの目の出かたには、どのような関係があるか説明しなさい。ただし、次の形式に合うように答えること。

1 回目と 2 回目のさいころの

となる。

正解答 (例)

1 回目と 2 回目のさいころの 目の差が 0 または 4 となる。



前問の条件を変えたときに、条件を満たすサイコロの目の出方の関係を探っていく力を問いました。「同じ目」と「目の差が 4」であることに気づきながらも、説明が不十分な解答が目立ちました。感覚的には理解していても、それを言葉として表現することが難しい受検生が多くいることがうかがえます。授業において、記述された内容が適切に表現できているかを正しく見取ることが大切です。

思考力等を問う問題では、暗記した知識をそのまま再生するのではなく、既習の知識・技能等を活用する力が必要とされます。単なる計算技能を高めることだけに重点を置くのではなく、どのように活用するのか、その必要性や有用性について、実感を伴って理解させることも重要です。

理科

出題例及び分析

【第2問題】 次の問1，問2に答えなさい。

問1 次の観察・実験は、田んぼ周辺の生物に興味をもったミズキさんが、8月に行ったものである。これについて、下の1～4に答えなさい。

実験

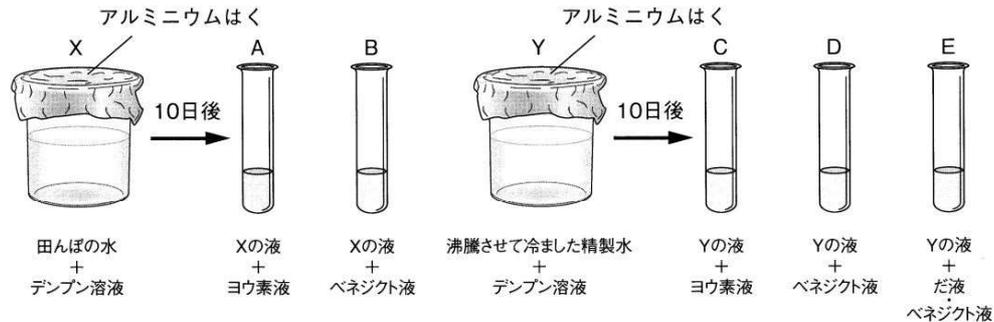
操作1 ビーカーXには田んぼの水を、ビーカーYには沸騰させたのち冷ました精製水を、それぞれ200cm³ずつ入れた。さらにX，Yそれぞれに1%デンプン溶液を50cm³ずつ加え、アルミニウムはくでふたをし、光の届かない場所に置いた。

操作2 10日後、試験管A，BにはXの液を、試験管C，D，EにはYの液を、それぞれ3cm³ずつ入れた。

操作3 A，Cにヨウ素液を加えて、液の色の変化を調べた。

操作4 B，Dにベネジクト液を加え、加熱後に沈殿が生じるかどうかを調べた。

操作5 Eにヒトのだ液を加え、約40℃で30分間保温したのち、ベネジクト液を加え、加熱後に沈殿が生じるかどうかを調べた。



結果 操作3 Aは青紫色にならなかった。Cは青紫色になった。

操作4 Bはわずかに沈殿が生じた。Dは沈殿が生じなかった。

操作5 EはBよりもはるかに多い沈殿が生じた。

4 結果のBではわずかししか沈殿が生じなかったが、その理由を結果のAが青紫色にならなかったことにふれながら、説明しなさい。

正解答(例) Xの液の中の生物が、デンプンを糖に分解し、生じた糖のほとんどを呼吸に使ったから。

三つの実験結果から一つの結論を導き出す力を問う問題です。三つの結果からデンプンが分解されるだけでなく、さらに生じた糖が生物の呼吸に使われるという2段階の変化を読み取る必要があります。また、解答するためには自分の考えを正確に表現する力も求められます。このような実験結果を処理し考察する力を高めるためには、まず普段から実験の目的をきちんと理解することが重要です。また、既習の事実と実験・観察の結果を照らし合わせ、理解を深める必要があります。さらに、複数の実験結果を結びつけて一つのことを考察する、複合的な情報処理能力も求められます。そのためには、実験・観察の結果をもとにグループワークを行うなど、主体的、対話的な活動を促すことが有効です。

英語科

出題例及び分析

<第3 問題>

問3 次のウォーカー先生 (Mr. Walker) とエリカ (Erika) さんの会話文を読んで、下線部が意味している教訓の内容として最も適当なものを、下のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

Mr. Walker : Have you talked to the new teacher?

Erika : No, not yet. He never smiles. I think he is very strict.

Mr. Walker : How do you know that? Don't judge a book by its cover.

Erika : You're right. I'll go and talk to him.

- ア You can't really know people just by looking at them.
- イ You should read a lot of books to broaden your horizons.
- ウ You should not speak to people without smiling.
- エ You must look at people carefully before talking to them.

<正解答> ア

前後の会話の内容を読み取って、下線部の英文の内容を推測して解答する問題です。会話中の strict, judge, cover は県内の多くの中学校が使用している教科書には出てこない未習語ですが、他の会話部分については既習の表現です。身に付けた知識をもとに、ウォーカー先生とエリカさんの会話の流れを正確に捉え、思考・判断することで正解答にたどり着いてほしい問題でしたが、正答率は 35.7% と低い結果でした。

<第4 問題> 一部抜粋

Lastly, like these 17 goals, we should have our own goals to make our world better. I'll tell you about my own goal. I'll clean the rivers in our town with my friends. Then we can protect the life in the water. (3) Why don't you think about your own goal?

問6 下線部 (3) について、あなた自身の考えとその考えがどのように役に立つのかを10語以上の英語で書きなさい。2文以上になってもかまいません。ただし、ヒロシさんがスピーチの中で述べていることは異なる内容を書くこと。

<正解答例> I'll buy more fair trade products. Then I can send more money to the workers.

読んだ内容をもとに書いて表現するという、「読むこと」と「書くこと」の二つの技能を統合して活用する力をみる問題です。求められている答えが「世界をよりよくするための自分自身の目標」であることを“Lastly”以下の文章から読み取る必要があります。難易度は高かったと思われます。一方で、直前の二つの英文が表現する上でのヒントとなっています。部分点も含め得点できた受検生は 22% で、無答率は 35.9% でした。学習指導要領では、複数の技能を統合的に活用できるコミュニケーション力の育成が求められており、そういった力をつけるための授業改善が一層必要となります。

また、生徒がどの段階でつまづいているのか、読んだ内容を理解する段階でつまづいているのか、自分の考えや気持ちなどを表現する段階でつまづいているのかを把握することが大切です。授業の中で、生徒の様子を観察しながら、確実な定着に向けた P D C A サイクルを回してほしいと思います。